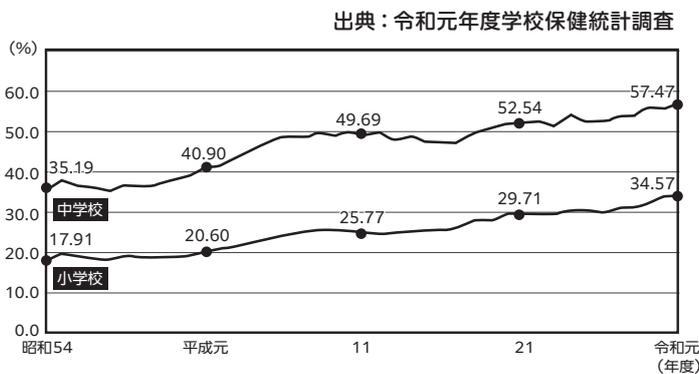


問 児童生徒の眼軸近視への対応策は

答 近視防止に具体的に取り組む



グラフ【裸眼視力 1.0 未満の者の割合推移】

時休業後にも、視力低下者が

ナ禍による臨

にある。コロ

年々低下傾向

生徒の視力は、

中学校児童

村内小・

を伺う。

学校の取組

して、今後の

守ることに對

ある。視力を

に大切な目で

きていく非常

年の人生を生

問 コロナ禍で、IT 機器を使用した 30 cm 以内の作業（学習・ゲーム等）による「眼軸近視」が増えてきた。視

力 1.0 未満の割合は、小学生で全国平均 34%、中学生になると 57%と発表されている。児童生徒にとつては 100



光風会
えだ いつむ 議員
江田 五六



眼軸の異常による視力低下

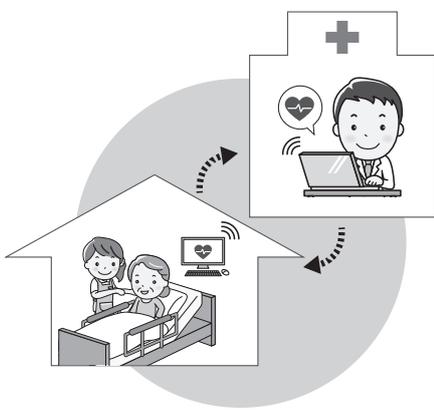
若干増えたという報告もあった。コロナ禍での IT 機器の長時間使用など様々な環境の変化が、子ども達の身体に少なからず影響を与えている。視力を守る新習慣「20分作業したら、20秒間、20フィート（約6メートル）先を見る」などの取組を、「眼軸近視」の予防策の一つとして今後養護教諭部会で検討していく。

問 システムで高齢者の健康管理を

答 実証研究結果等を注視していく

問 高齢者と東海病院が、IT 機器を使ってつながり、健康状態のチェックができる体制づくりが必要であると以前から提案してきた。アプリやスマートウォッチを使って超早期ケアが可能となり、重症化予防ができる段階にきている。コロナ禍を契機に、国と民間企業が体温・血圧を測定すると同時にデータが病院に行くシステムを開発した。これらのシステムは、高齢者の健康維持に必要なである。

答 IT 機器を利用した高齢者の健康状態がチェックできる体制作りは、医療機器関連企業が開発したスマホアプリで症状や血圧、血中酸素濃度を転送し、健康管理を行うシステムがある。当該システムは、実証研究段階にあり、国において、その有効性等について検証が進められている。今後、村としては実証研究結果等を注視していく。



将来、在宅で健康管理ができる時代になる